芝高SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール文部科学省研究開発指定校

新潟県立新発田高等学校

平成 28 年 11 月 14 日

第 25 号

10 月 10 日から 10 月 15 日までの６日間の日程で、２年理数科の生徒がマレーシア研修を行いました。６日間という限られた時間の中で、生徒はこの研修でしか味わえないたくさんの体験をしました。この貴重な体験を以下にまとめて報告します。

1日目 10月10日(月) 2日目 10月11日(火)

１日目は成田市への移動日でした。校長先生からの激励を受け、多くの人に見守られながら新発田高校を出発しました。夕食後に研修に向けての発表練習を行い、入念な準備を行いました。

２日目は成田空港からマレーシアへの移動の１日でした。マレーシアに到着した時間は遅かったですが、マレーシアに到着すると生徒は、これから始まる研修に期待を膨らませている様子でした。

3日目 10月12日(水)

３日目はマレーシア国民大学附属校で、他県の高校生と一緒にマレーシアと日本の文化交流を行いました。研究発表では、英語での発表を行いました。質疑応答も英語で行い、生徒は英語の重要性を実感しつつ、一生懸命に答えていました。また、文化紹介発表ではクラス全員で協力し、日本の折り紙の紹介などを行いました。

4日目 10月13日(木)

４日目はマレーシア森林研究所・国立ゴム研究所・ペトロナスツインタワーの３ヶ所で研修を行いました。マレーシア森林研究所では、事前研修で学習した熱帯植物を間近で観察することができました。英語での説明を理解しようと真剣に聴き入っていました。国立ゴム研究所では、事前研修で学んだゴム研究の歴史やゴム製品の製造過程等をガイド案内や展示の英語を頼りに理解しようと取り組みました。ペトロナスツインタワーではペトロサインスでの研修行いました。多くの研修先を訪れ、ここでしか学べない多くのことを学べる中身の充実した時間を過ごすことができました。

5日目 10月14日(金) 6日目 10月15日(土)

５日目は、マラヤ大学と三井住友海上を訪問しました。マラヤ大学では、植物園での実習と、大学で行われている研究を体験してきました。２つの班に分かれ熱心に取り組んでいました。三井住友海上では、海外で働く日本人の方々から貴重なお話を伺いました。海外で働く意義や苦労など、ここでしか聞けない話しに生徒は興味関心を高めていました。

６日目はマレーシアから成田、そして新発田までの移動でした。全ての日程を無事に終えることができました。この６日間で生徒は多くのことを学び、充実した研修となりました。Terima Kasih！

- 今回の研修は短いながらも様々なプログラムがあり、忙しく、一瞬のうちに過ぎてしまったように感じました。その中で私にとって一番印象深かったのはUKMでのことです。現地の人たちは、私達を暖かく歓迎してくれて、発表のときも反応が良く、緊張を和らげてくれました。 もう一度マレーシアに行ってみたい、そう思うような研修になって良かったと思います。
  （太田晴紀さん）
- 海外は日本と大きく違い、言語や文化などで苦労することがありました。ですが、マレーシアの文化は日本と違ってまた良いところもあり異国の文化を知ることができ良い経験となりました。言語に関して、自身の英語がうまく伝わっているのかが不安でした。より英語を勉強していかなければならない、と思わされる研修となりました。 （石黒皓大さん）
- マレーシアで活動していた三日間はとても有意義でした。マレーシアに着いた時は現地の人とコミュニケーションをとることができるか不安だったけれど、ジェスチャーなどで補いながらも取れたのでよかったです。
  （田中芙湧人さん）
- 今回の研修では多くの外国の人と英語で話すことができた。自分の英語のスキルがだいぶ上がったと思う。どの研修も自分の一生の宝となった。また、自分は異国の地で生活すると、３日で慣れることがわかった。辛さには耐えられなかった。 （肥田大輝さん）
- マレーシアの食文化や生活様式を体験できたし、色々な人と交流できてすごく良い経験になりました。3 日間充実していて本当に楽しかったです。
  （小林晶子さん）